

2016年度 桐朋学園大学音楽学部音楽学科
音楽学専攻課程 入学試験問題[作文]

次の課題文を読み、下記の問いに答えなさい。

音楽は、単なる物理的音響ではない。人間に受け容れられ、人間の内部になにかしら意味のある反応を生じさせてこそ、初めて音楽と呼ぶに値する。だが、ともすればこのことを忘れて、「楽譜」の次元で、あるいは演奏によってもたらされた「現実の響き」の次元で、一つの音楽作品を完結した不動の存在と思いつ込みがちだ――しかし音楽にとって重要なことは、むしろ人間が、音楽をどのように受け容れるかにあるのではないか。そして当然、音楽の「受容」のありかたは時代によって、また個人によって大きく変化しうるものであるから、音楽作品とは、その意味できわめて流動的かつ曖昧な存在と言えよう。

1) 著者は音楽を3つの次元に分けている。その3つの次元とは何か、また著者が最も重視している次元は何か、答えなさい。

2) 3つの次元の関係について、課題文に即して自身の考えるところを論じなさい。